

2025年11月26日

2026年3月期中間期決算及び 中期経営計画の進捗について

Accelerate'27

2025

I 中期経営計画「Accelerate '27」の概要

II 2026年3月期中間期 業績の概要

III セグメント別の業績及び今後の見通し

IV 2026年3月期 通期業績予想

V 「Accelerate '27」の進捗

VI 資本収益性の向上に向けた取り組み

I 中期経営計画「Accelerate '27」の概要

II 2026年3月期中間期 業績の概要

III セグメント別の業績及び今後の見通し

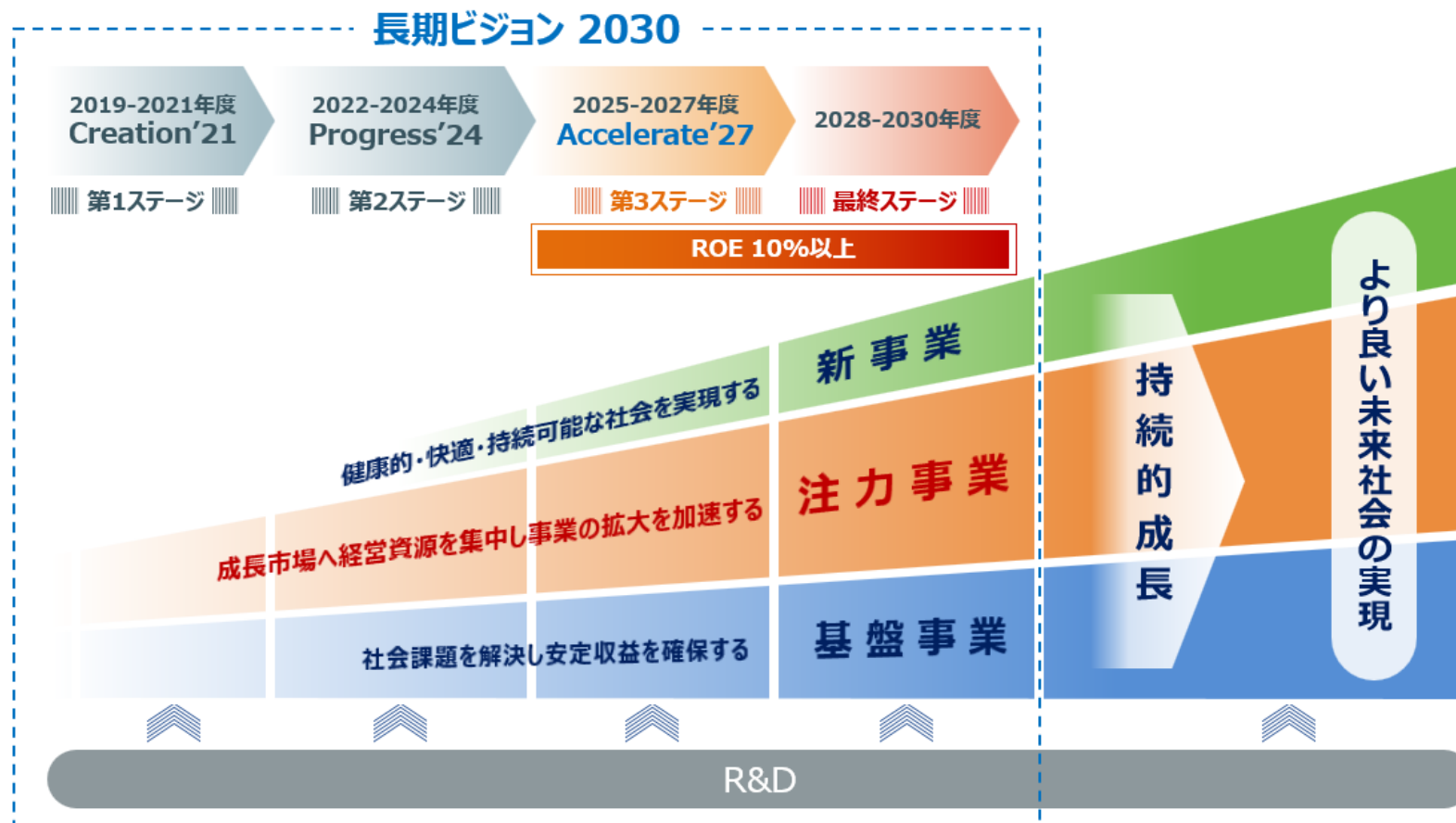
IV 2026年3月期 通期業績予想

V 「Accelerate '27」の進捗

VI 資本収益性の向上に向けた取り組み

長期ビジョン実現に向けた第3ステージへ！
事業ポートフォリオ改革をさらに加速し、最終ステージに向けた取り組みを強化

『イノベーションと高収益を生み出す強い企業グループ』



中期経営計画「Accelerate'27」の骨子

基本方針	高収益事業の成長加速と経営資源の効率的な活用による企業価値の向上
重点施策	① 成長市場に向けた注力事業の展開・加速と基盤事業の収益力強化 ② R&D活動の強化と新規事業の創出・収益化 ③ サステナブル社会の実現への貢献 ④ エンゲージメントの高い組織の構築

前中期経営計画からの課題

- 注力事業のさらなる成長加速
- 基盤事業の構造改革の推進
- 新規事業創出・収益化の早期実現

環境変化

- 注力領域における成長機会の拡大
- DXを含むイノベーションの進展
- SDGsや気候変動対応への意識の高まり

新型コロナウイルス感染症のパンデミックの影響を大きく受け大幅な未達

Creation'21

Progress'24

Accelerate'27

事業ポートフォリオ改革のさらなる加速

長期ビジョン2030

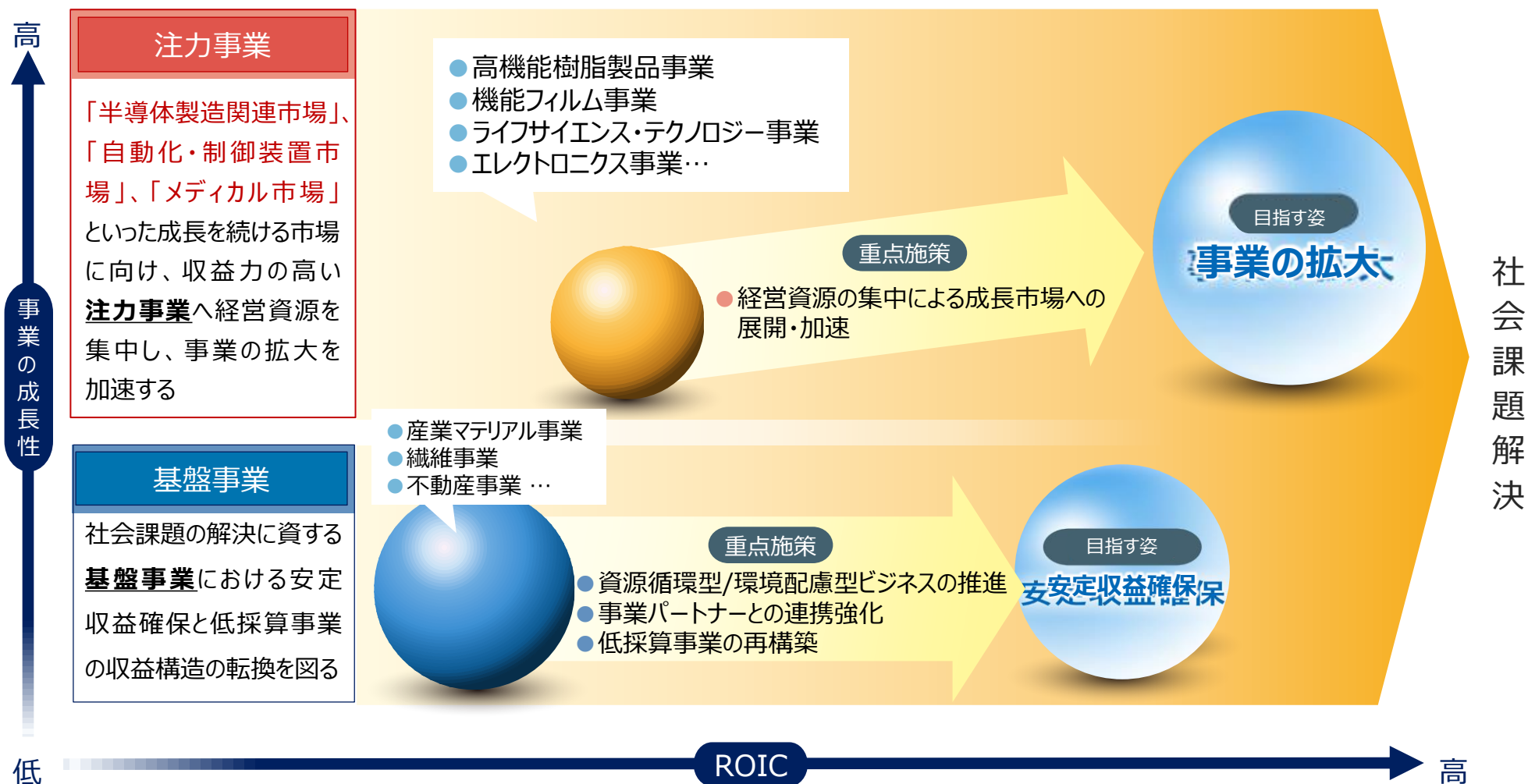
「イノベーションと高収益を生み出す事業体制への変革」

の実現

最終年度目標

- 売上高：1,650億円
- 営業利益：130億円

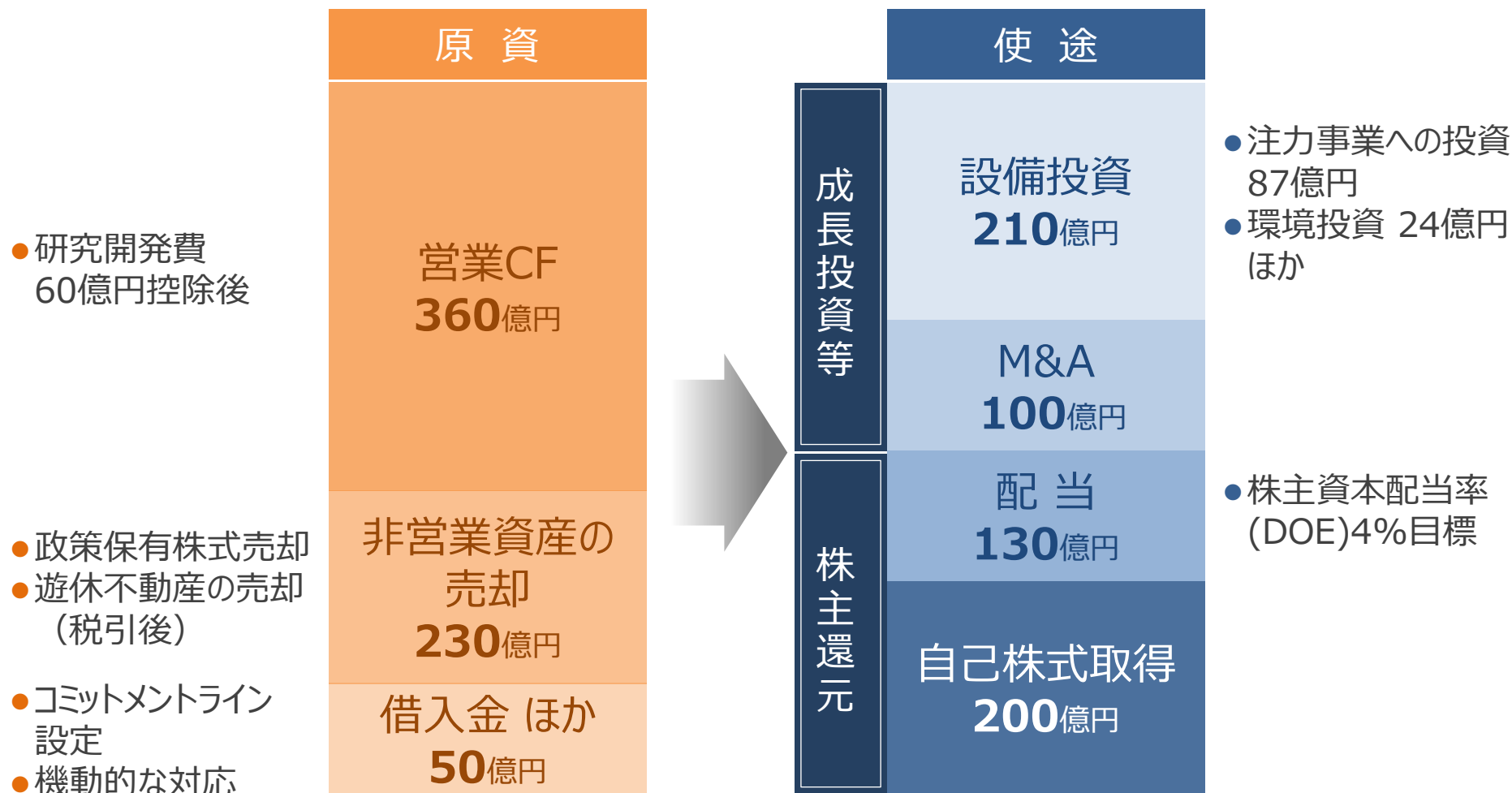
収益性の高い注力事業へ経営資源を集中し、事業ポートフォリオ改革を加速する



各セグメントと事業区分、注力領域との関係

各セグメント	事業区分	主な製品・サービス	注力/基盤	注力領域
化成品	高機能樹脂製品	高機能樹脂加工品（フッ素、スーパーエンブラ）、フッ素樹脂素材、フィルタなど	注力	半導体製造関連
	機能フィルム	半導体工程フィルム（離型フィルム、ダイシングフィルムなど）	注力	半導体製造関連
		太陽電池向け封止材、各種高機能フィルム	注力	
	産業マテリアル	軟質ウレタン、断熱材、建材、不織布などの機能資材	基盤	
繊維	糸	高機能糸（機能性コットン糸NaTech）など	基盤	
	ユニフォーム	ユニフォーム高機能生地・製品（防災・難燃素材ブレバノなど）、暑熱リスク管理システム（スマートフィット）など		
	カジュアル	カジュアル向け高付加価値生地・製品など		
環境メカトロニクス	ライフサイエンス・テクノロジー	攪拌脱泡装置、遺伝子抽出装置・受託解析、ロボットビジョン、自動化装置（ラボ/ファクトリーオートメーション）など	注力	ライフサイエンス関連
	エレクトロニクス	液体成分濃度計など	注力	半導体製造関連
		インフラ検査装置、膜厚計など		
	エンジニアリング	ウエハー等洗浄装置、薬液供給装置など	注力	半導体製造関連
		環境関連設備（水処理、ガス処理、バイオマスなど）	基盤	
食品・サービス	食品	フリーズドライ食品	注力	ライフサイエンス関連
	サービス	複合文化施設（倉敷アイビースクエア）、自動車教習所	基盤	
不動産	不動産	不動産賃貸	基盤	

営業キャッシュフロー及び非営業資産の売却等により資金を捻出し、成長投資と株主還元へバランスよく配分



I 中期経営計画「Accelerate '27」の概要

II 2026年3月期中間期 業績の概要

III セグメント別の業績及び今後の見通し

IV 2026年3月期 通期業績予想

V 「Accelerate '27」の進捗

VI 資本収益性の向上に向けた取り組み

■ 前年同期比では減収減益も、業績予想比では増益

- 売上高 692億円 前年同期比 $\triangle 3.6\%$ (業績予想比 $\triangle 1.1\%$)
- 営業利益 39億円 前年同期比 $\triangle 7.3\%$ (業績予想比 $+22.8\%$)
- 経常利益 48億円 前年同期比 $\triangle 5.0\%$ (業績予想比 $+21.1\%$)

■ 主力の半導体製造装置向け高機能樹脂製品が減速し、**化成品事業**が前年同期比では減収減益も、半導体市況の低迷を織り込んだ業績予想比では上振れ。
構造改革を進める**繊維事業**はカジュアル部門の苦戦により前年同期比では減収減益。
環境メカトロニクス事業は、FA設備、鉄道業界向け検査装置、ウエハー洗浄装置等が堅調で増収増益。

■ 特別利益に政策保有株式の売却益を計上し、大幅な最終増益。

- 中間純利益 64億円 前年同期比 $+87.5\%$ (業績予想比 $+14.7\%$)

第2四半期（中間期）業績の概要（全社）

(単位：百万円)	25/3期 第2四半期 (中間期) 実績		26/3期 第2四半期 (中間期) 実績		前年同期比		業績予想（8/7）比	
		構成比		構成比		増減率		差異率
売上高	71,845		69,245		△2,599	△3.6%	△755	△1.1%
売上総利益	14,656	20.4%	14,555	21.0%	△100	△0.7%	—	—
販管費	10,415	14.5%	10,625	15.3%	+210	+2.0%	—	—
営業利益	4,241	5.9%	3,929	5.7%	△311	△7.3%	+729	+22.8%
経常利益	5,100	7.1%	4,843	7.0%	△257	△5.0%	+843	+21.1%
親会社株主に帰属する 中間純利益	3,425	4.8%	6,421	9.3%	+2,995	+87.5%	+821	+14.7%
設備投資額	1,814		1,894		+79			
減価償却費	2,561		2,416		▲144			

売上高は、「化成品事業」及び「繊維事業」の落ち込みにより減収となり、8/7付け増額修正予想を下回る結果となった。
一方、利益面でも減収により減益となったものの、予想比では各事業が堅調に推移し、8/7付け増額修正予想をさら上回った。
特に、中間純利益は政策保有株式売却益により大幅な増益を実現した。

第2四半期（中間期）業績の概要（セグメント別）

(単位：百万円)		25/3期 第2四半期 (中間期) 実績		26/3期 第2四半期 (中間期) 実績		前年同期比		業績予想（8/7）比	
			利益率		利益率		増減率		増減率
化成品事業	売上高	32,592		29,869		△2,723	△8.4%	△131	△0.4%
	営業利益	2,312	7.1%	1,564	5.2%	△748	△32.4%	+264	+20.3%
繊維事業	売上高	23,650		22,131		△1,519	△6.4%	+131	+0.6%
	営業利益	35	0.1%	△524	△2.4%	△560	－	+176	－
環境メカトロニクス事業	売上高	8,866		10,044		+1,177	+13.3%	△856	△7.9%
	営業利益	1,052	11.9%	1,830	18.2%	+777	+73.9%	+130	+7.6%
食品・サービス事業	売上高	4,873		5,230		+356	+7.3%	+130	+2.5%
	営業利益	217	4.5%	369	7.1%	+152	+70.0%	+69	+23.0%
不動産事業	売上高	1,862		1,971		+109	+5.9%	△29	△1.4%
	営業利益	1,186	63.7%	1,245	63.2%	+59	+5.0%	+145	+13.2%

(単位：百万円)	25/3末	25/9末	増減	備考
流動資産	84,835	79,795	△5,039	売上債権や棚卸資産の減少
（現金及び預金）	(15,192)	(15,003)	(△189)	
固定資産	105,693	110,397	+4,704	
（有形・無形固定資産）	(45,801)	(44,964)	(△836)	
（投資その他の資産）	(59,891)	(65,432)	+5,541	投資有価証券の増加
資産合計	190,529	190,193	△335	
流動負債	39,502	33,740	△5,762	短期借入金や未払設備代の減少
固定負債	29,843	30,751	+907	繰延税金負債の増加
負債合計	69,346	64,491	△4,854	
純資産	121,182	125,701	+4,518	その他有価証券評価差額金の増加
（株主資本）	(100,511)	(102,024)	(+1,512)	
負債・純資産合計	190,529	190,193	△335	
自己資本比率	62.9%	65.4%	+2.5pt	
ROE（自己資本純利益率）	7.6%	—	—	
ROA（総資産営業利益率）	5.4%	—	—	
ROIC（投下資本利益率）	5.5%	—	—	

株価上昇の影響

キャッシュ・フローの状況

(単位：百万円)	25/3期 第2四半期 (中間期)	26/3期 第2四半期 (中間期)	備考
営業キャッシュ・フロー	4,600	9,028	
(減価償却費)	(2,561)	(2,416)	
(運転資本(※)の増減)	(470)	(3,549)	※売上債権+棚卸資産-仕入債務
投資キャッシュ・フロー	△1,701	△352	
(有形及び無形固定資産の取得による支出)	(△1,729)	(△3,982)	設備投資 1,894百万円(計上額)
(投資有価証券の売却による収入)	(一)	(4,376)	政策保有株式の売却
財務キャッシュ・フロー	△4,904	△8,735	
(自己株式の取得による支出)	(△1,687)	(△2,901)	
(配当金の支払額)	(△1,083)	(△2,042)	
現金及び現金同等物増加額	△1,905	△181	
現金及び現金同等物の中間期末残高	14,218	14,977	

I 中期経営計画「Accelerate '27」の概要

II 2026年3月期中間期 業績の概要

III セグメント別の業績及び今後の見通し

IV 2026年3月期 通期業績予想

V 「Accelerate '27」の進捗

VI 資本収益性の向上に向けた取り組み

第2四半期（中間期）業績の概要

半導体製造関連市場の低迷を受け、主力の「高機能樹脂製品」が減速し、事業全体で減収減益。一方「産業マテリアル」は構造改革や生産性改善が寄与し、収益性が改善。

サブセグメントの状況

高機能樹脂製品

AI用途以外の半導体市場の低迷により、半導体製造装置向け等の受注が減少

機能フィルム

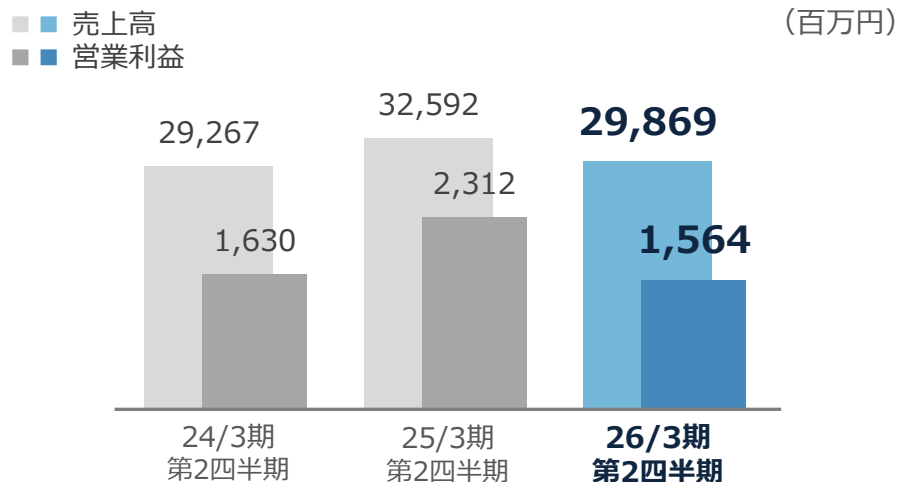
太陽電池向けの受注が堅調も、北米の自動車向けの受注が減少。

産業マテリアル

自動車内装材向け軟質ウレタン、自動車フィルター向け不織布や断熱材の受注が順調。

	25/3期 第2四半期	26/3期 第2四半期	増減
高機能樹脂製品	8,975	6,998	△1,977
機能フィルム	5,161	4,770	△390
産業マテリアル	21,142	21,247	+104
消去ほか	△2,688	△3,148	△460
合計	32,592	29,869	△2,723

売上高・営業利益 推移



今後の業績見通し（2026/3期 業績予想）

売上高

625億円

営業利益

35億円

- 需要回復遅れで、「高機能樹脂製品」は通期で減速。顧客シェア拡大と新規技術開発に注力。
- 「機能フィルム」は太陽電池向けや半導体製造関連向けの堅調な受注を見込む。
- 「産業マテリアル」は自動車向け軟質ウレタンの一部で米国関税影響が顕在化するも子会社の不織布事業は引き続き好調を維持。
- DX推進による製造競争力強化を図り、環境・省エネ対応商品の拡大を急ぐ。

第2四半期（中間期）業績の概要

原料改質技術を活用した高機能コットン糸「NaTech(ネイテック)」などの差別化原糸を中心に「糸」は堅調も、「カジュアル」が大口顧客からの受注減により国内外ともに苦戦。事業全体で減収、赤字化。
構造改革については7月末に安城工場の閉鎖を完了。

サブセグメントの状況

糸

「NaTech(ネイテック)」などの差別化原糸の受注が増加。工場閉鎖に伴う生産移管も順調に進行。

ユニフォーム

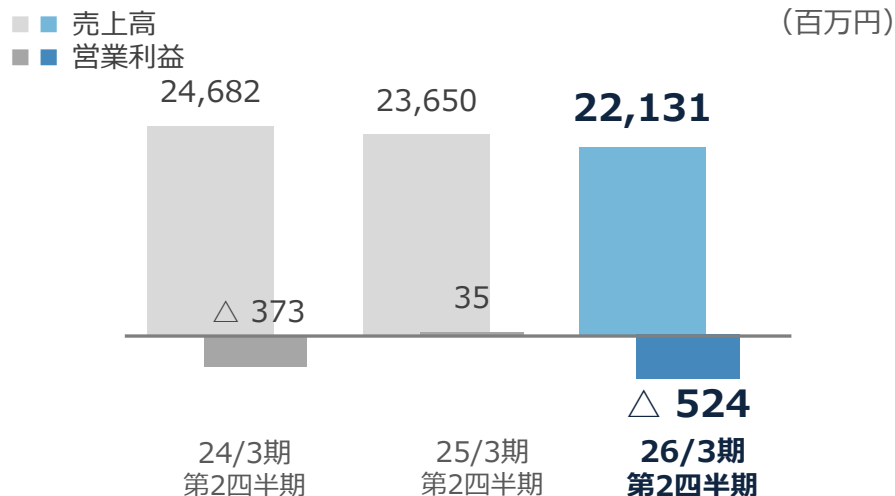
「Smartfit(スマートフィット)」が減速も、ユニフォームアパレル向け製品の受注が増加。

カジュアル

国内SPA向けの生地受注が減少。

	25/3期 第2四半期	26/3期 第2四半期	増減
糸	8,212	9,085	+872
ユニフォーム	5,388	5,454	+65
カジュアル	12,316	10,347	△1,968
消去ほか	△2,267	△2,756	△489
合計	23,650	22,131	△1,519

売上高・営業利益 推移



今後の業績見通し（2026/3期 業績予想）

売上高

435億円

営業利益

▲7億円

- 「糸」は、ブラジル子会社が不振も、差別化原糸は引き続き堅調、閉鎖した安城工場からの生産移管でASEAN子会社も受注増を見込む。
- 「ユニフォーム」は、リネン分野が不振も、ワーキング向けが防災・難燃素材を中心に下半期以降に受注回復を見込む。
- 「カジュアル」は大口顧客の受注をめぐる価格競争が激化し、低採算化が進行、下半期も苦戦が続く。

第2四半期（中間期）業績の概要

「半導体製造関連領域」に向けた液体成分濃度計やウエハー・フィルター洗浄装置などの商材が堅調で「エレクトロニクス」「エンジニアリング」の業績を押し上げ。「ライフサイエンス・テクノロジー」は関税影響を受けた攪拌脱泡装置の北米輸出減やロボットビジョンの停滞を子会社FA設備の受注増でカバー。

サブセグメントの状況

ライフサイエンス・テクノロジー

攪拌脱泡装置が米国の関税政策の影響を受けて低調に推移も、子会社のFA設備の受注が増加。

エレクトロニクス

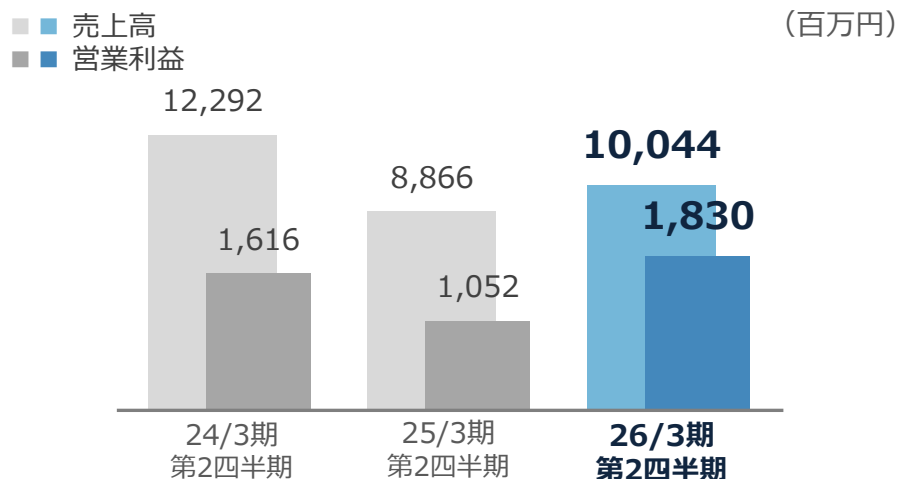
半導体業界向け液体成分濃度計が堅調に推移し、また、鉄道業界向けインフラ検査システムや膜厚計なども順調。

エンジニアリング

排ガス処理設備などが堅調に推移し、また子会社のウエハー洗浄装置やフィルター洗浄装置の受注も好調。

	25/3期 第2四半期	26/3期 第2四半期	増減
ライフサイエンス・テクノロジー	2,091	2,425	+333
エレクトロニクス	3,468	3,764	+295
エンジニアリング	4,006	5,067	+1,060
消去ほか	△700	△1,212	△512
合計	8,866	10,044	+1,177

売上高・営業利益 推移



今後の業績見通し（2026/3期 業績予想）

売上高

232億円

営業利益

34億円

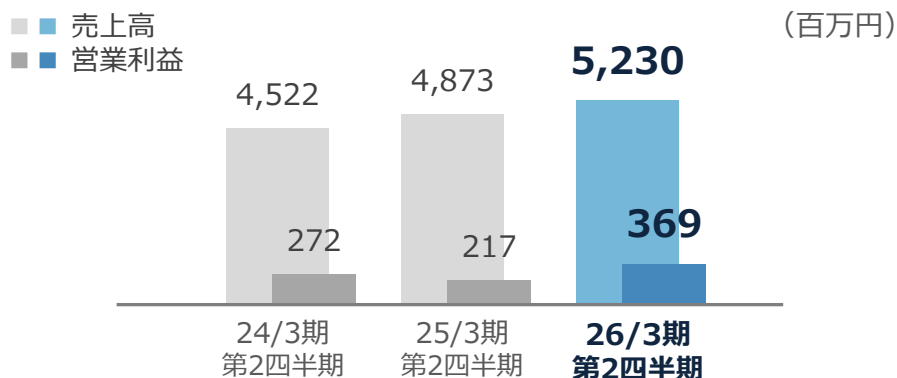
- 「ライフサイエンス・テクノロジー」は、攪拌脱泡装置が低調に推移するも、ロボットビジョンが下半期に挽回。子会社FA設備も引き続き好調を維持。
- 「エレクトロニクス」は、インフラ検査システムが鉄道用・路面用とも順調。膜厚計や液体成分濃度計が堅調を見込む。
- 「エンジニアリング」は、ウエハー洗浄装置など半導体製造関連が順調。

第2四半期（中間期）業績の概要

「食品」は、即席麺具材の拡販が順調。

「サービス」のホテル関連はインバウンドの旺盛な需要により宿泊やレストランが順調で、宴会需要も回復傾向。

売上高・営業利益 推移



今後の業績見通し（2026/3期 業績予想）

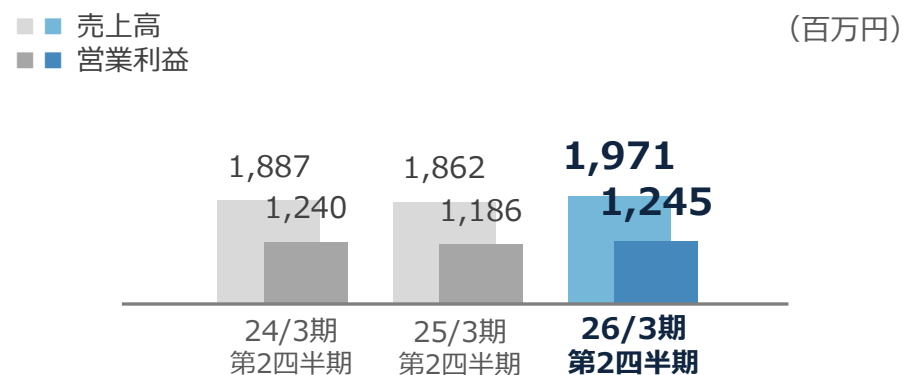
売上高 **110億円** 営業利益 **7億円**

- 「食品」は、引き続き即席麺が順調に推移、スープも新商品の採用や新規顧客開拓が進む。差別化商品の開発と輸出を含めた新市場開拓の基盤づくりに注力。
- 「サービス」のホテル関連は旺盛な需要を背景に高い客室単価、稼働率を維持。

第2四半期（中間期）業績の概要

賃貸物件の新規開店により増収増益。

売上高・営業利益 推移



今後の業績見通し（2026/3期 業績予想）

売上高 **38億円** 営業利益 **22億円**

賃貸物件の新規開店により増収も、修繕費増などで営業利益は横ばいを見込む。

I 中期経営計画「Accelerate '27」の概要

II 2026年3月期中間期 業績の概要

III セグメント別の業績及び今後の見通し

IV 2026年3月期 通期業績予想

V 「Accelerate '27」の進捗

VI 資本収益性の向上に向けた取り組み

米国関税影響など、今後も不透明な経済状況が続くと想定されることから、通期の売上高、営業利益、経常利益の予想を据え置くも、政策保有株式売却益の増加等を織り込み、最終利益の予想を上方修正。

(単位：百万円)	25/3期 通期 実績		26/3期 業績予想				前期比	
			前回公表（8/7）		今回公表			
		構成比		構成比		構成比		増減率
売上高	150,660		144,000		144,000		△6,660	△4.4%
営業利益	10,311	6.8%	8,000	5.6%	8,000	5.6%	△2,311	△22.4%
経常利益	11,784	7.8%	9,500	6.6%	9,500	6.6%	△2,284	△19.4%
親会社株主に帰属 する当期純利益	9,014	6.0%	9,500	6.6%	10,500	7.3%	+1,486	+16.5%
設備投資額	7,156		7,800		7,300		+144	
減価償却費	5,157		5,100		5,000		△157	

2026年3月期 通期業績予想：セグメント別

高機能樹脂製品の回復遅れを見込む化成品事業が下方修正も、半導体製造関連領域に向けた商材が堅調な環境メカトロニクス事業や拡販が進む食品事業でカバーし、売上高、営業利益トータルでは据え置き

(単位：百万円)		25/3期 通期 実績		26/3期 業績予想				前期比	
				前回公表		今回公表			
			利益率		利益率		利益率		増減率
化成品事業	売上高	66,002		64,000		62,500		△3,502	△5.3%
	営業利益	5,030	7.6%	3,900	6.1%	3,500	5.6%	△1,530	△30.4%
繊維事業	売上高	48,532		43,500		43,500		△5,032	△10.4%
	営業利益	75	0.2%	△700	△1.6%	△700	△1.6%	△775	－
環境メカトロニクス事業	売上高	21,943		22,200		23,200		+1,257	+5.7%
	営業利益	3,341	15.2%	3,000	13.5%	3,400	14.7%	+59	+1.8%
食品・サービス事業	売上高	10,458		10,500		11,000		+542	+5.2%
	営業利益	724	6.9%	700	6.7%	700	6.4%	△24	△3.3%
不動産事業	売上高	3,723		3,800		3,800		+77	+2.1%
	営業利益	2,243	60.3%	2,200	57.9%	2,200	57.9%	△43	△1.9%

株主還元方針（「Accelerate'27」期間の目標値）

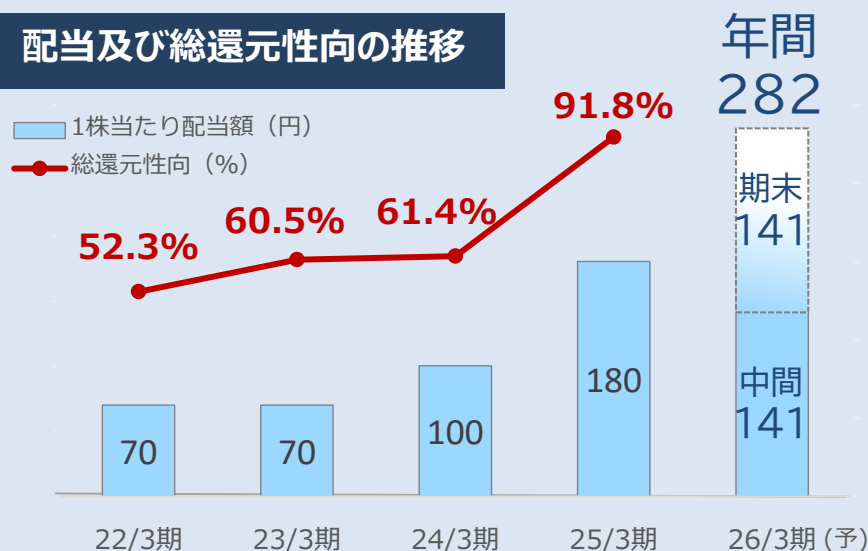
- 配当政策：株主資本配当率（DOE）4%
- 自己株式の取得：200億円

2026年3月期 配当予想

年間配当 **282円/株**（前期比 **+102円/株**）の大幅増配を予定

－ 中間配当 141 円/株、期末配当予想 141円/株

配当及び総還元性向の推移



自己株式取得・消却

自社株式の取得実施 完了

（※2024年11月7日付け取締役会決議に基づく）

- － 取得株式の総数：987千株（うち当期取得 367千株）
- － 取得価額の総額：5,999百万円（ " 2,547百万円）

※ 自己株式1,000千株の消却を決議（2025年11月11日）
消却予定日 2025年11月25日

自己株式の取得（新規）

自己株式取得に係る事項を決議（2025年11月11日）

- － 取得株式総数： 上限 1,000千株
- － 取得株式総額： 上限 **70億円**
- － 取得期間： 2025年11月12日～2026年9月30日

I 中期経営計画「Accelerate '27」の概要

II 2026年3月期中間期 業績の概要

III セグメント別の業績及び今後の見通し

IV 2026年3月期 通期業績予想

V 「Accelerate '27」の進捗

VI 資本収益性の向上に向けた取り組み

数値目標

【全社目標】

【全社目標】	(単位：億円)	(基準年度)	(最終年度)				
		25/3期 実績 ①	26/3期		27/3期 計画	28/3期 計画 ②	増減 ②－①
			前回公表	今回公表			
売上高		1,506	1,440	1,440	1,520	1,650	+143
営業利益		103	80	80	112	130	+26
経常利益		117	95	95	120	130	+12
親会社株主に帰属する 当期純利益		90	95	105	100	110	+19
売上高営業利益率		6.8%	5.6%	5.6%	7.4%	7.9%	+1.1pt
ROE（自己資本純利益率）		7.6%	8.0%	8.7%	9.0%	10.0%	+2.4pt
ROA（総資産営業利益率）		5.4%	4.3%	4.2%	6.2%	7.5%	+2.1pt
ROIC（投下資本利益率）		5.5%	4.4%	4.2%	6.4%	7.9%	+2.4pt

【事業別目標】

事業別目標】		25/3期 実績 ①	前回公表	今回公表	27/3期 計画	28/3期 計画 ②	増減 ②－①	CAGR
(単位：億円)								
化成品事業	売上高	660	640	625	680	740	+79	+3.9%
	営業利益	50	39	35	55	60	+9	+6.1%
繊維事業	売上高	485	435	435	450	490	+4	+0.3%
	営業利益	0	△7	△7	6	12	+11	+152.0%
環境メカトロニクス 事業	売上高	219	222	232	240	270	+50	+7.2%
	営業利益	33	30	34	34	40	+6	+6.2%
食品・サービス事業	売上高	104	105	110	112	112	+7	+2.3%
	営業利益	7	7	7	7	8	+0	+3.4%
不動産事業	売上高	37	38	38	38	38	+0	+0.7%
	営業利益	22	22	22	22	22	△0	△0.6%

中期経営計画「Accelerate'27」の進捗

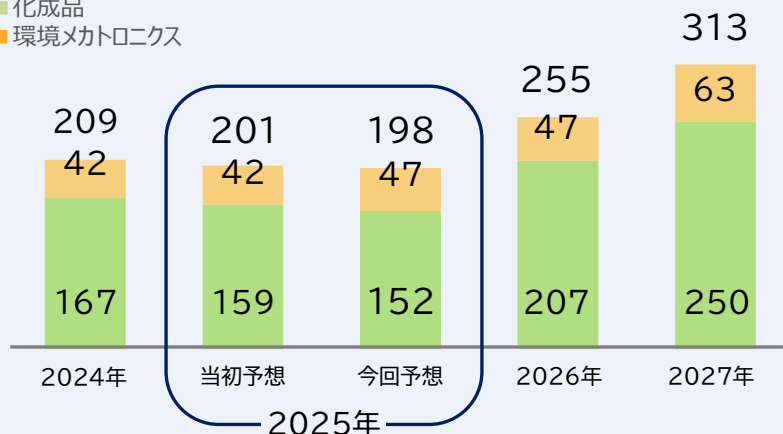
	主な重点施策	主な活動実績
化成品事業	半導体製造関連やエネルギー関連市場へ向けた高機能樹脂製品・機能フィルム事業への経営資源集中と事業拡大加速	- 市況の回復が遅れ業績面では伸び悩むも、2025年7月に熊本イノベーションセンターの操業を開始。高機能樹脂製品の生産・開発体制を増強し、将来的な市場の回復・拡大局面に備える。 - エネルギー関連市場向け太陽電池封止材用途や半導体製造関連のパッケージ離型フィルムやダイシング工程向けフィルムが受注拡大。 
	自動車や住宅関連市場向け産業マテリアル分野における新規ビジネスの展開と市場への深耕	- 軟質ウレタンは自動車向けが米国関税影響を受けるも、原材料費低減や生産性改善により利益面では堅調に推移。 - 住宅用建材は、住宅省エネ基準への適合義務化を背景に断熱ボードが好調も、国内住宅需要の低迷や米国向け景観材で米国関税の影響を受け住宅建材が低調。非住宅向けの新用途開発や米国以外の海外市場開拓に注力。
繊維事業	最終ユーザーのニーズに基づく独自技術の開発推進と独自技術商品の販売拡大	- 原料改質技術を活用した高機能コットン糸「NaTech(ネイテック)」は堅調推移。夏期需要の更なる取り込みを目指し、吸水速乾機能の開発に注力。 - 防災・難燃素材は拡大も、暑熱リスク管理システム「Smartfit(スマートフィット)」は伸び悩む。 - 大手繊維素材メーカー等と共同で「繊維 to 繊維」プロジェクトを提案し、NEDOの「バイオものづくり革新推進事業」に採択。同プロジェクトを進めるコンソーシアムCFT2（Consortium for Fiber to Fiber）の設立に参画。 
	海外製造拠点を軸としたグローバルサプライチェーンの構築	2025年7月末に安城工場閉鎖。ASEAN子会社への生産移管が進捗。インドネシア子会社が工場をジャカルタ首都圏から中部ジャワに移転を決定するなど事業構造改革が進展。
環境メカトロニクス事業	半導体関連事業、ライフサイエンス・テクノロジー事業の成長加速	- 半導体製造関連の液体成分濃度計やウエハー洗浄装置は好調。事業拡大に向け、外注先との連携等を強化。 - ライフサイエンス・テクノロジー事業の攪拌脱泡装置は米国関税影響等もあり減速。
	社会課題の解決に資する環境やインフラ関連ビジネスなどの市場開拓と収益力強化	- 鉄道向け軌道材料（レール・枕木等）検査システムは受注拡大。新幹線の他、JR在来線、私鉄へも展開。 - 新エネルギー（水素、アンモニア）対応の工業炉への脱硝装置の開発および最終製品化へ。

半導体製造関連領域：機能フィルムが後工程市場に深耕

売上目標(半導体製造関連)

(単位：億円)

■ 化成品
■ 環境メカトロニクス



<ウエハー製造工程>



薬液供給装置



ウエハー洗浄装置



薬液濃度計



高機能樹脂製品

<後工程>



機能フィルム

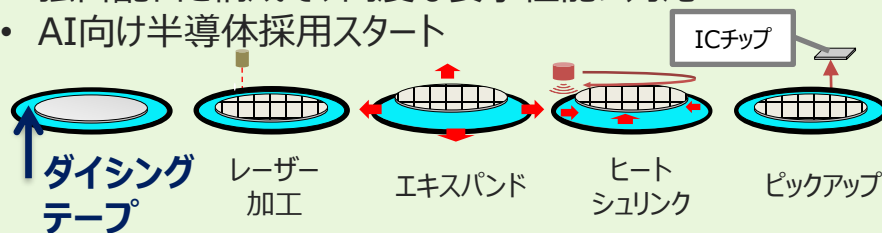
半導体の後工程は、前工程の微細化の限界を背景に重要性が増し、成長が期待される。

AIやデータセンター、自動運転といった様々な応用分野で、先端パッケージへのシフトが進み、市場を牽引していく中、当社が注力する半導体製造工程で使用する機能性フィルムは、その成長市場に着実に深耕している。

半導体製造工程向け機能フィルム製品例

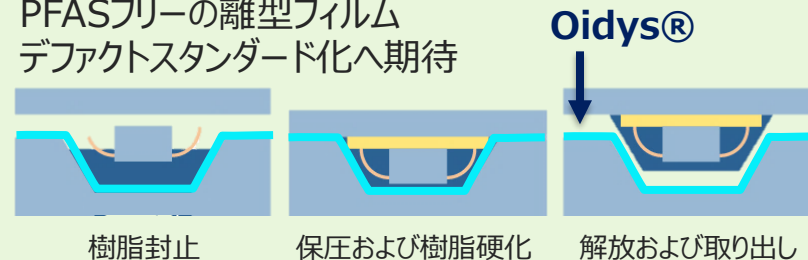
ダイシング工程テープ用 高機能フィルム

- ・ 独自配合と構成で、高度な要求性能に対応
- ・ AI向け半導体採用スタート



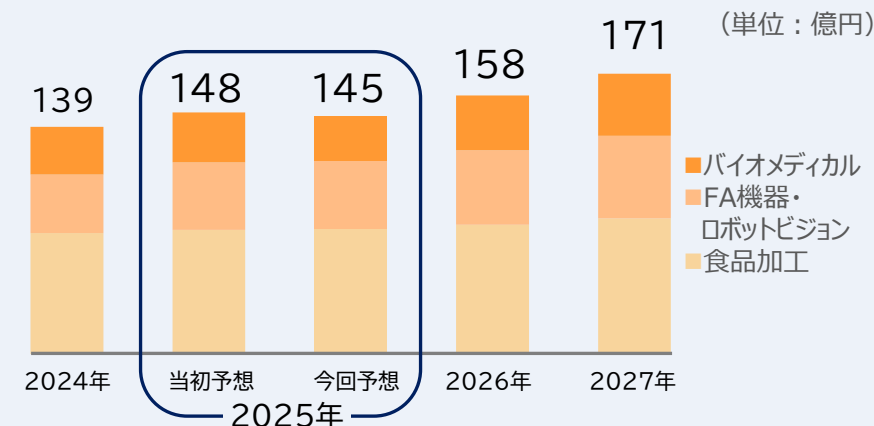
パッケージ離型フィルム「Oidys®」

- ・ AI向け広帯域メモリーで採用増
- ・ PFASフリーの離型フィルム
- ・ デファクトスタンダード化へ期待



ライフサイエンス関連領域：バイオテクノロジーと自動化ソリューションで、健康増進や労働力不足などの社会問題解決に貢献

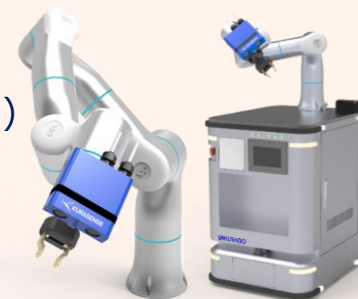
売上目標(ライフサイエンス関連)



2025国際ロボット展 に出展します

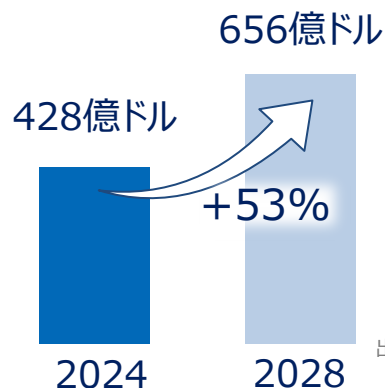
INTERNATIONAL ROBOT EXHIBITION 2025

- 日程：12月3日～6日
- 場 所：東京ビッグサイト
- ブース：12小間（約105.85㎡）
- 展示内容（予定）：
 - ワイヤハーネス製造自動化
 - 調剤自動化
 - **自動車部品組み立て自動化**
 - 研究作業の自動化(ロボットメーション)



KURAVIZON
KURASENSE VISION & RIZON

ロボティクスの市場規模（世界）



中長期的に、人手不足や人件費の高騰を背景とした世界的な自動化・省人化ニーズの高まりで、需要が増加していくとみられる。

出典：総務省『情報通信白書（令和6年版）』
 (https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r06/html/nd132200.html、取得日2025年11月14日)

取組事例

EV車製造工程の課題

- 充電の際、停車位置が都度異なる
- 完成車に傷はつけられない

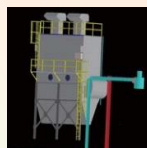
自動化ソリューション

充電自動化

- 受電口の角度をクラセンスで補正
- 精度の良い力覚センサーを使い、プラグを傷つけない



- 高速3Dビジョンセンサー
Kurasense



- 三次元写真計測
Kuraves



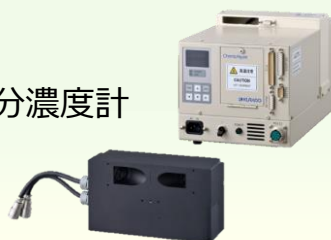
- 鉄道軌道・路面検査・トンネル検査システム

- 化成品事業
- 繊維事業
- 環境メカトロニクス事業



- 基板外観検査装置
BBMASTER

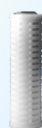
- 液体成分濃度計
- 膜厚計



- 徳島バイオマス発電所

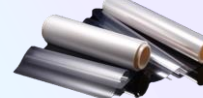


- 機能性コットン
NaTech

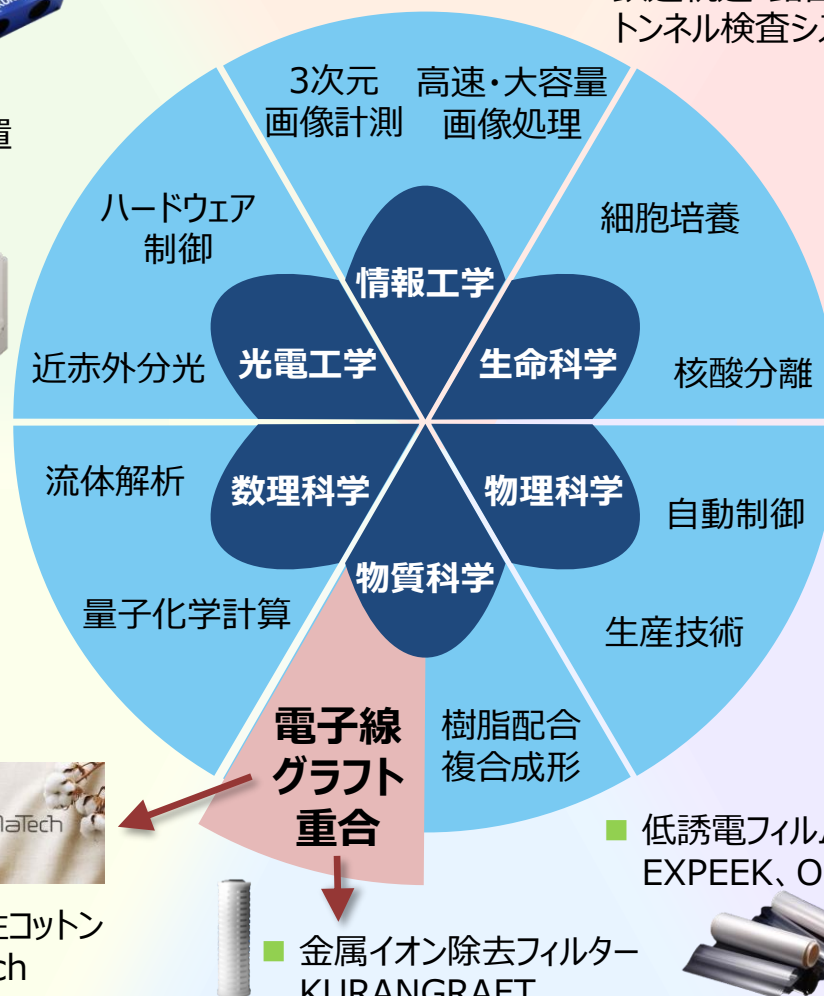


- 金属イオン除去フィルター
KURANGRAFT

- 低誘電フィルム
EXPEEK、Oidys



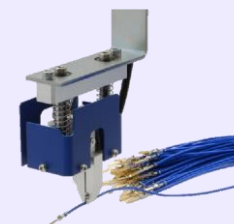
- 熱可塑性炭素
繊維複合材



- 核酸抽出装置
QuickGene、GENE PREP STAR

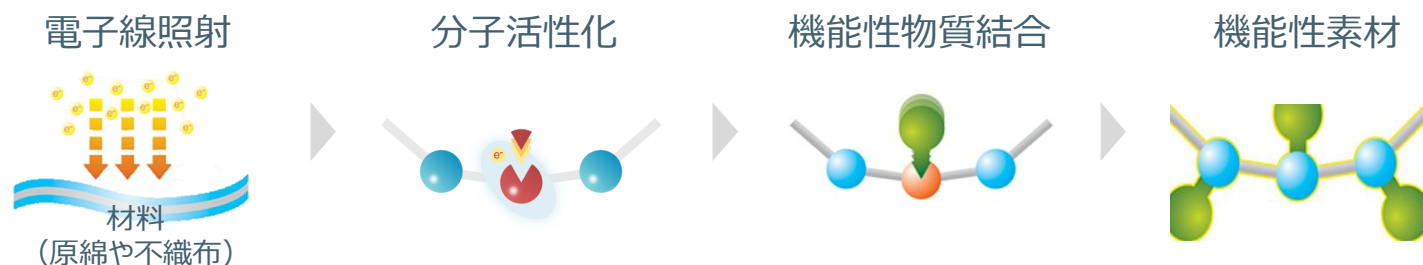


- 攪拌脱泡装置
MAZERUSTAR



- ロボット周辺機器
Kurabotte

電子線(放射線)を照射して天然繊維などの高分子材料に新たな機能を付与する改質技術



電子線グラフト重合装置

この技術を応用した商品



原綿など天然繊維



吸湿発熱
吸放湿
消臭 etc.



■ 化成品事業
■ 繊維事業

機能性コットン
NaTech



不織布



イオン捕捉



■ 金属イオン除去フィルター
KURANGRAFT

金属イオン除去フィルター **KURANGRAFT 増産**

用途

半導体のフォトリソ工程で使用される薬液に含まれる微量金属イオンを除去・低減するフィルター。

生産能力強化

倉敷繊維加工(株)静岡工場にてグラフト重合加工および洗浄クラボウ熊本イノベーションセンターにも自動洗浄装置を設置、下期中に生産開始。

目標

半導体製造市場において、年商 5 億円を目指す。

I 中期経営計画「Accelerate '27」の概要

II 2026年3月期中間期 業績の概要

III セグメント別の業績及び今後の見通し

IV 2026年3月期 通期業績予想

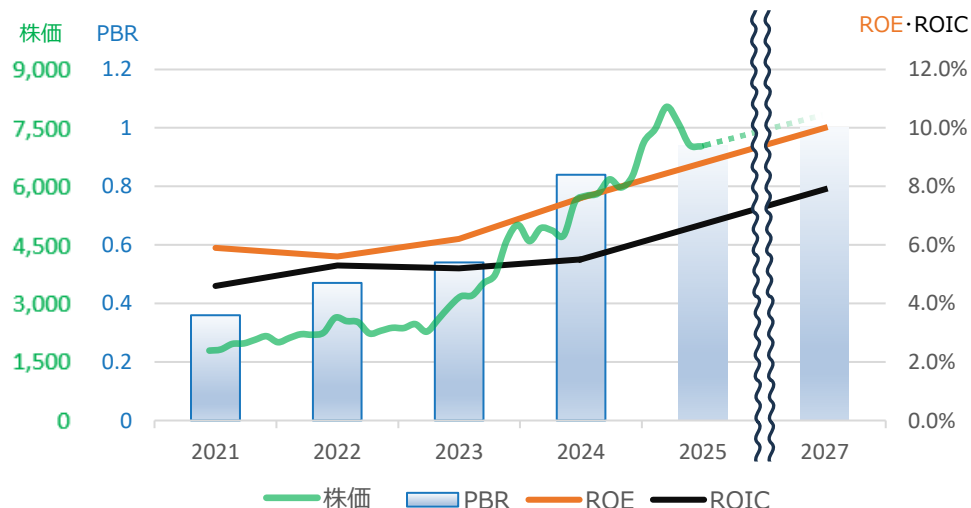
V 「Accelerate '27」の進捗

VI 資本収益性の向上に向けた取り組み

現状認識

4月以降、株価は上昇トレンドで、8月には株式併合後（2018年）以来の最高値（8,770円）を記録。その後も概ねPBR1倍水準となる7,000円前後で推移しており、市場からの一定の評価を得ていると認識。

【過去4年間の株価、PBR、ROE、ROICの推移】



【2024年度末】

株価 5,960円 >>>>> 7,000円水準

PBR 0.84倍 >>>>>

ROE 7.6% >>>>>

ROIC 5.5% >>>>>

PER 11.55倍

【現状】

【目標】

1倍以上

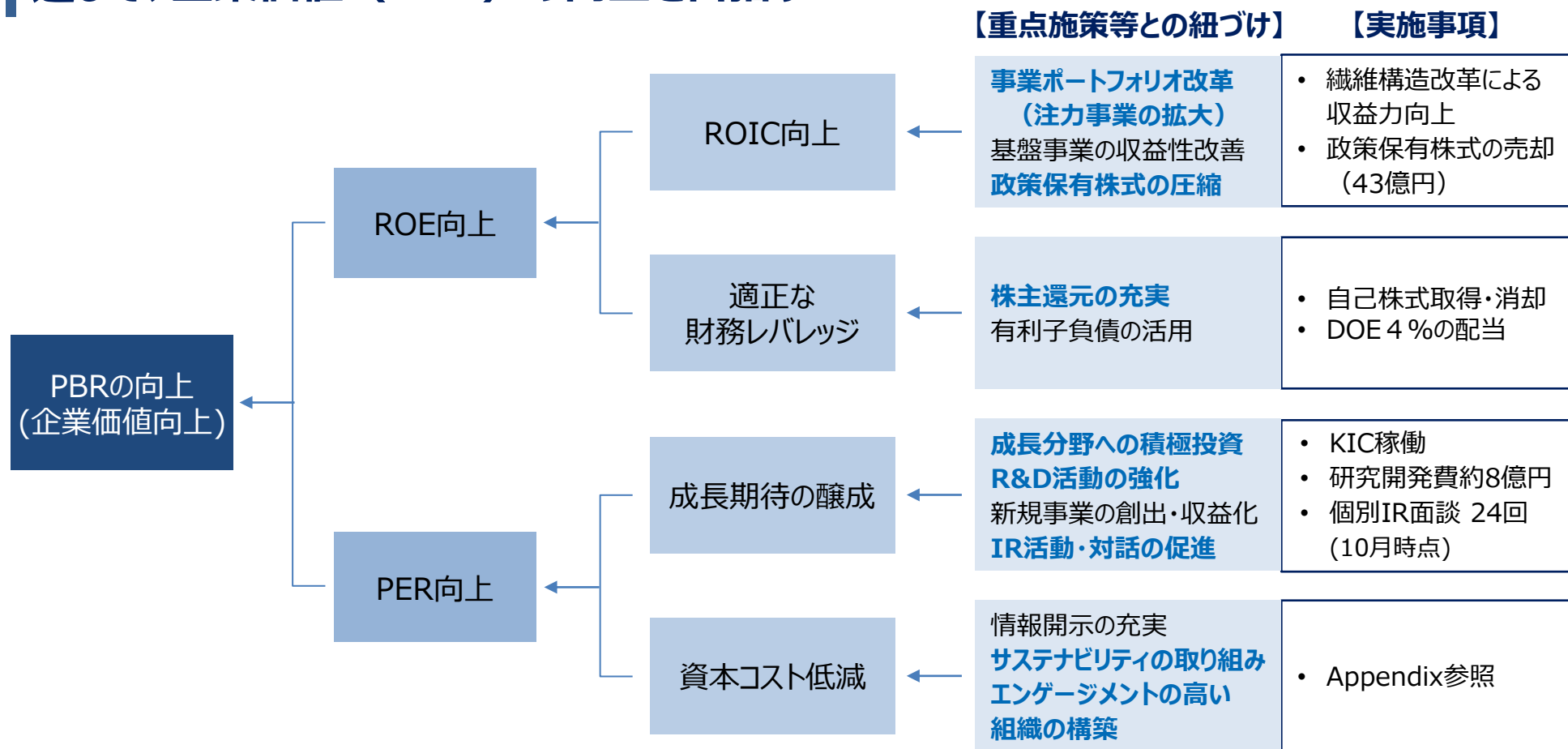
10%以上

8%以上

今後の方針

株主資本コストはCAPM等の手法を基に6%~7%のレンジと把握しているものの、株主の期待するリターンは更に高いものと認識しており、「Accelerate'27」の目標である **ROE10%以上の実現**や**IR活動の充実**などを通して、まずは安定的に**PBR1倍以上**の水準を目指す方針

引き続き、事業ポートフォリオ改革や政策保有株式の圧縮、株主還元の充実などを通して、企業価値（PBR）の向上を目指す



※青文字は特に影響（重要度）の大きいもの

 **KURABO**



将来情報に関するご注意

本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、将来の業績を確約するものではありません。実際の業績等は、内外主要市場の経済環境、為替相場の変動など様々な要因により、大きく変動する可能性があります。

また、本資料に掲載されている情報は、情報提供を目的としたものであり、いかなる有価証券、金融商品又は取引についての募集、投資の勧誘や売買の推奨を 目的としたものではありません。本資料への当社に関する情報の掲載に当たっては万全を期しておりますが、その内容の正確性、完全性、公正性及び確実性を保証するものではありません。従いまして、本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではありません。

Appendix

【基本方針】

持続的な社会の実現に貢献するためには、企業自らが持続的な企業価値の向上を目指さなければならないと考えており、付加価値の高い技術や商品・サービスを創出し、高収益事業を育成・拡大するとともに、当社グループの経営理念である

「私たちクラボウグループは、新しい価値の創造を通じてより良い未来社会づくりに貢献します。」のもと、以下の実践に努める。

- 
- ① 事業を通じた社会課題解決への貢献
 - ② 地球環境の保全を意識した事業活動の推進
 - ③ 人権の尊重および、働きやすさとやりがいのある職場環境の整備
 - ④ 信頼される企業づくりの推進

サステナビリティの取り組み (マテリアリティ (重要課題) の特定と主な施策)

【マテリアリティ】

【主な施策】

※青文字は売上高の伸びや収益性改善に直接結びつく施策

【対応するSDGs】

安心・安全で快適な 社会の実現

- デジタル社会の進展に貢献する半導体市場関連製品、サービスの開発と提供
- 労働人口の減少対策のためのFA・ロボット事業展開と生産拠点の スマートファクトリー化、QR体制の構築
- 革新的な技術や高度な品質を支える研究開発と知財戦略の推進
- 安心・安全に貢献する商品の販売拡大



地球環境への配慮と 循環型社会への貢献

- 環境配慮型商品の拡大
- 循環型ビジネスモデルの構築
- カーボンニュートラルへの取り組み推進
- 環境負荷を低減する技術開発
- 事業継続計画 (BCP) の強化



多様な人材の活躍推進と 人権尊重

- 人権教育とサプライチェーン管理の徹底
- 多様な人材の活躍推進 (DE&I、エンパワメント)
- 柔軟な働き方推進、エンゲージメント向上
- 安全衛生管理の徹底、健康経営の推進
- 自動化、DX推進による生産性向上



持続的な成長に向けた ガバナンス・CSRの強化

- コンプライアンス教育の徹底、内部統制の強化
- ステークホルダーとの対話の充実
- 非財務情報の開示の充実
- 資本収益性や株価を意識した経営
- 事業ポートフォリオ戦略、経営資源配分
- 事業リスク管理の強化



クラボウグループの長期環境目標

クラボウグループは、政府目標である2030年度にCO₂排出量を46%削減（2013年度比）、2050年度にカーボンニュートラルの達成に向けて、CO₂排出量削減のための推進体制を強化し、具体的な施策を進めてまいります。



取組み

脱炭素社会・資源循環型社会に向けた取組み

●カーボンニュートラルロードマップに基づくCO₂排出量の削減

- ✓ 太陽光パネルの設置（クラボウ徳島工場・三重工場、タイクラボウなど8製造拠点） 合計2,700t-CO₂削減
- ✓ ボイラーのガス化、冷凍機更新（クラボウ裾野工場・鴨方工場、日本ジフィー食品） 合計1,400t-CO₂削減
- ✓ 再生可能エネルギー由来の電力導入（クラボウ本社ビル） 合計400t-CO₂削減

●資源の有効活用と再資源化の推進

- ✓ 廃棄物ゼロエミッションの推進（再資源化率） 2025年度目標 97%（前年度実績 96.3%）

●サプライチェーンのCO₂排出量（Scope3）把握

- ✓ カテゴリー 1～8 2023年度実績 合計644,500t-CO₂/年

更新

社員一人ひとりが組織に主体的に貢献する「エンゲージメントの高い組織の構築」に 取り組む

「Accelerate'27」重点施策④ エンゲージメントの高い組織の構築

① 活力ある組織風土の醸成

アンコンシャス・バイアスの理解浸透、積極的な採用・配属による女性活躍、LGBTQ+の理解促進、積極的な障がい者雇用、ハラスメントのない職場づくりのための全社員を対象とした継続的な研修の実施、などのDE&Iの推進

指標	24/3期	25/3期	目標
エンゲージメントスコア（偏差値）	—	43.6	55.0（28/3期末）
管理職に占める女性割合	3.0%	4.1%	5%以上（28/3期末）
新卒総合職に占める女性割合	45.0%	37.5%	各年度30%以上
経験者総合職採用に占める女性の割合	24.0%	27.6%	定めず
総合職女性の配属課比率	44.8%	50.6%	50%以上（28/3期末）
障がい者雇用率	2.69%	2.63%	法定雇用率以上
外国籍総合職採用数	1名	5名	定めず

② 柔軟な働き方の推進

フレックスタイム制度・テレワーク制度・工場休日の増加、有休の取得促進、男性育休取得率の向上、オフィスカジュアル、工場ユニフォームの刷新、安全衛生管理・健康経営の推進

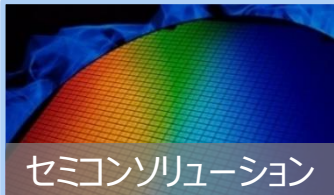
月平均時間外労働	9.1 h	8.7 h	10 h 未満（28/3期）
有給休暇取得日数	14.6日	13.1日	15日以上（28/3期）
男性の育休取得率	57.9%	73.1%	70%以上（28/3期）
業務上災害発生件数	9件	6件	0件
健康経営有料法人認定取得（偏差値）	認証(49.8)	認証(57.1)	偏差値60以上

③ 多様な人材の確保と育成

採用力強化のためのエージェントやダイレクトリクレーティングの活用、採用HPの刷新、通年・リファラル・アルムナイ採用、教育内容定着のための上司へのフィードバック、スマートファクトリー化・事業変革のためのIoT推進・DX活用教育

総合職採用に占める経験者の割合	55.6%	64.4%	定めず
一人当たり社内研修費用	3.3万円	3.5万円	4万円以上

R&Dの中核となる技術研究所では、次世代の主力事業として推進している4つのプロジェクトを、事業部との連携のもとで本格化していく

コア技術	プロジェクト	研究開発費	製品
数理科学 - 計算化学 - 流体解析	 ロボットセンシング	8億円	高速3DビジョンセンサーKurasense 路面検査・トンネル検査システム ロボット周辺機器Kurabotte
物理科学 - メカ制御 - 生産技術	 セミコンソリューション	13億円	低誘電フィルムEXPEEK、Oidys 液体成分濃度計
光電工学 - 分光計測 - 回路設計	 ライフサイエンス・テクノロジー	5億円	核酸抽出装置QuickGene、 GENE PREP STAR
情報工学 - 画像処理 - AI認識	 マテリアル・ソリューション	20億円	機能性コットンNaTech 複合素材
物質科学 - 表面改質 - コンバーティング			
生命科学 - 核酸分離 - 細胞培養			
	その他	14億円	計60億円（3年間累計）